

平成18年1月の解説（週間天気予報）

【1月の天候状況】

上旬の前半は低気圧の影響で全国的に曇りや雨、雪の日が多くなりました。後半は冬型の気圧配置が続き、北日本や東日本、西日本の日本海側で雪や雨の日が続きましたが、太平洋側では晴れました。中旬は、はじめに北日本と日本の南岸を低気圧が通過して全国的に雨や雪が降った後、日本の南海上の前線や低気圧の影響で東日本、西日本の太平洋側を中心に曇りや雨の日が多くなりました。下旬は冬型の気圧配置が続き、北日本や東日本の日本海側では雪の日が多くなりましたが、太平洋側の地方では晴れの日が多くなりました。

月を通しての日照時間は、北日本の太平洋側と東日本、西日本の日本海側の地方の一部では平年と比べて多くなりましたが、その他の地方では平年と比べて少なく、北日本の日本海側では多くの地点で平年の60%を下回りました。降水量は北日本の太平洋側で平年より少なく、平年の40%を下回った観測地点もありましたが、東日本、西日本の太平洋側の地方では平年より多く、多くの観測地点で平年の170%を上回りました。月平均気温はほぼ全国的に平年並か低く、東日本では平年より2℃以上低い観測地点もありました。

【1月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7日目の平均）は全国平均では例年^(注)より2ポイント低い70%でした。東海、北陸、近畿、沖縄地方では4から6ポイント低くなりましたが、九州北部地方では4ポイント高くなりました。最高気温（2～7日目の平均）の予報誤差は全国平均では例年と同じ2.2℃で、九州南部地方では例年より0.7℃大きくなりましたが、北海道地方では例年より0.5℃小さくなりました。最低気温（2～7日目の平均）の予報誤差は全国平均では例年より0.1℃大きい2.2℃で、特に中国地方では例年より0.3℃大きくなりました。

(注) 例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【1月の週間天気予報から】

低気圧の影響による天気の崩れを1週間ほど前から予想することは、低気圧の発達程度や進路など不確定な要因があり、結果として発表した天気が大きく変わることがあります。

1月14日は日本付近を低気圧が通過して全国的に雨や雪が降り、その後15日は晴れ後曇りの天気になりました。

8日（6日前）時点では、低気圧が14日から15日にかけて関東地方を通過する確度は高かったのですが、通過のタイミングは不確定でした。予想資料などから15日に通過する可能性が高いと判断して週間天気予報では14日は曇りで15日に雨が降ると予報しました。9日（5日前）に発表した予報では、低気圧の通過のタイミングが早まって14日から日をまたいで15日にかけて低気圧が通過する

予 報 発 表 日										実際の 日中の 天気
1 月										
7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日			
14日									14日	
15日									15日	

表 2006 年 1 月 14 日と 15 日の東京の天気
の予報と実際の天気

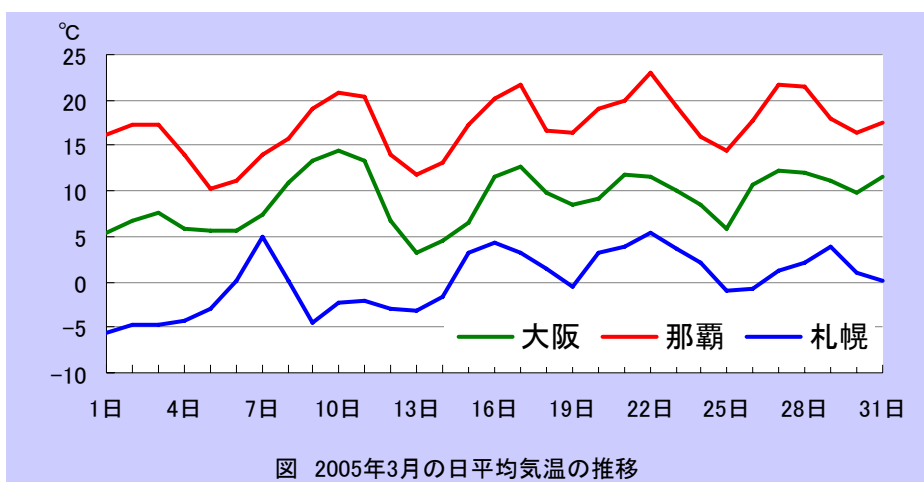
との判断から、両日とも雨が降るとしました。12日（2日前）発表の予報では、予想資料では低気圧の通過はさらに早まって、15日夜には日本の東海上へ遠ざかる見込みとなりました。この時点で雨が降る可能性が最も高いのは14日の午後から夜にかけてと予想しましたが、低気圧通過のタイミングに含まれる誤差を考慮した結果、15日未明までは雨が続く可能性が高いと判断して14日は曇のち雨、15日は雨のち曇りと予報しました。実際には東京（大手町）では、14日の午後から夜にかけて雨が降り続けましたが深夜には止み、15日の日中の天気は晴れ後曇りとなりました。

低気圧の動向の予想には必ず予想誤差を伴います。予報が先になればなるほど予想誤差は大きくなります。雨が深夜となって日をまたぐと予想されるときには、当初は2日間にわたって雨の予報を発表する場合がありますが、最新の予報になるにつれて低気圧の動向が確定されて、雨の降り始めや降り終わりの時刻がはっきりしてくるため、結果としてどちらかの日が晴れになるなど当初の予報と大きく異なることがあります。最新の週間天気予報をご利用ください。

【3月の週間天気予報の利用にあたって】

3月の気温は地域によって大きく違い、月平均の平年値では那覇では18.6℃、札幌では0.1℃と、日本の中で20℃近い差があります。この月は全国どこの地域でも次第に暖かくなって行きますが、気温は単調に上昇するわけではありません。おおまかには低気圧が近づいてくると、暖かい南風が吹き込んで気温が上がり、通過した後は北からの冷たい空気が流れこんで気温が下がります。このような寒暖を繰り返して次第に気温が上がって行きます。この日々の気温の変動は大きく、4月5月の暖かさから一転して、1月2月の寒さとなることもあります。

2005年の3月は、5～6日の間隔で、日本付近を低気圧が通過して、その度に気温が上昇と下降を繰り返しました。大阪では日平均気温が11日から13日にかけて10℃以上も下がり、その後16日にかけて再び10℃以上上がりました。



3月の週間天気予報の利用の際は、天気とともに気温の変化にも留意いただき、健康管理等にご利用下さい。